

2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	高レジリエンス構造システム小委員会		主 査 名：高田豊文 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (応用力学運営委員会)		委員長名：塩原 等 主 査 名：高田豊文
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2021 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	レジリエンスを考慮した建築構造設計の研究や設計事例をとりまとめ、現状分析と将来的な展望についての包括的な資料を提供し、内容を広く公表する。 初年度：構造設計とレジリエンスの関連などについて調査・議論する。 2 年度：初年度の内容に加え、構造レジリエンスの定量化について調査・議論。 3 年度：前年度までの調査研究結果の公表を目指し、大会 PD を企画する。 4 年度：大会 PD の具体的内容を検討し、PD を開催する。		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：高田豊文 (滋賀県立大学) 幹事：寒野善博 (東京大学), 山川誠 (東京理科大学) 委員：浅岡泰彦 (大林組), 朝川剛 (東京電機大学), 磯部大吾郎 (筑波大学), 伊藤拓海 (東京理科大学), 竹脇出 (京都大学), 谷翼 (大成建設), 趙衍剛 (神奈川大学), 中村尚弘 (広島大学), 福田隆介 (鹿島建設), 山本雅史 (竹中工務店)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2019年度予算	50,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. ロバスト性・冗長性・レジリエンスに関する各委員の研究内容を踏まえ、実務設計でのレジリエンスの考え方と実践、およびレジリエンスの定量化の指標について議論した。 2. レジリエンス概念を導入した構造設計に関する書籍の出版について議論した。 3. 2020年度大会PDの内容について検討した。
委員会活動の問題点・課題	1. 書籍の出版や大会PDの企画のためには、委員増が必要であると感じた。